西濃農林事務所の普及活動状況　令和６年６月

今月の重点活動

■冬春トマト　３名がぎふ清流ＧＡＰ認証

６月 10 日、令和６年２月にぎふ清流ＧＡＰの審査を受けた海津トマト部会の生産者３名に対し、農場評価証書が送付された。

２月の審査後、要改善となった項目を中心に是正措置の支援を行い、より高い評価を目指して改善活動を進めてきた。結果、３名の方は全て 600 点以上の評価を得ることが出来た。

農林事務所では、引き続きＧＡＰ認証に向けた活動を支援し、安心・安全なトマト生産を推進していく。

【認証された生産者】

ぎふ農業・農村を支える人材育成

■食農教育　墨俣小学校田植体験の開催

６月 12 日、多面的機能支払交付対象組織である下宿地区農地保全向上管理組合では、墨俣小学校５年生約 40 名に対して、田植体験を実施した。農林事務所は運営について支援した。

この行事は 10 年程前から継続して開催されている。児童は実際に田植えを行ったことのない子が多く、代掻きされた水田に入り、ドロドロになりながら一生懸命田植えを行っていた。

農林事務所では、地域の食農教育について引き続き支援していく。

【田植体験の様子】

■みかん　南濃みかん部会総会の開催

６月 21 日、南濃みかん部会の令和５年度通常総会がＪＡにしみの石津支店で開催された。

昨年度、南濃みかん部会は、試験的にドローンによる防除委託を開始し、３戸で延べ 131 a の防除が行われた。今年度は、ドローン防除に係る経費の一部を市が補助することとなり、大幅な省力となるドローン防除の拡大が期待される。

農林事務所では、今後は防除効果確認など、スマート農業推進に向けた支援を行っていく。

【総会の様子】

安心で身近な「ぎふの食」づくり

■小麦　成熟期調査の実施

６月３日より養老町内の小麦（品種：さとのそら）の収穫が開始された。ＪＡにしみの養老北カントリー施設で荷受けは行われ、６月７日に町内の小麦の収穫が終了した。

農林事務所ではＪＡにしみのと連携し、事前に町内６地点の実証ほの坪刈りを行い、穂数・穂長・稈長等の成熟期調査を行った。今後は乾燥後、県農業技術センターで脱穀調整・品質分析を行い、調査結果を次年度の栽培に向けて活かしていく。

【小麦の収穫及びサンプル】

■小麦　種子生産ほ場での収穫作業が終了

６月１～３日、海津市内の２法人の小麦（品種：さとのそら）の種子生産ほ場で収穫作業が行われた。本年は倒伏や雑草が例年より少なく、収穫作業は順調に行われた。

一般種子は輪之内ＣＥ、原種は美濃市の種子センターで乾燥し、その後、種子センターで原種と伴に精選を行う。

農林事務所では、種子生産ほ場で収穫された種子の発芽率の確認など、生産物審査を実施し、優良な種子確保に向けた支援を行っていく。

【収穫された小麦種子】

■土地利用型農業・担い手　農業生産工程管理（ＧＡＰ）の取り組みを開始

海津市南濃町の米麦大豆を生産する法人組織が農業生産工程管理（ＧＡＰ）の取り組みを開始した。目的は法人で働く人の労働環境を改善することである。

５月 17 日、法人代表とＪＡ、農林事務所でＧＡＰの取り組みについて意見交換し、その目的、段取り等を整理した。６月 25 日には再び関係者が集まり、「ぎふ清流ＧＡＰ評価制度」の評価基準により、具体的、客観的に実践程度を確認した。この法人はスマート農業技術である「経営生産管理システム」の「アグリノート」を導入し、既にほ場ごとの作業について見える化が出来ている。

農林事務所では、現状の取り組みを基に、改善提案を続けていく。

【生産管理手法について指導】

■夏秋なす　海津茄子部会目揃え会の開催

６月７日、ＪＡにしみの海津中支店において、海津茄子部会の目揃え会が開催された。目揃え会には生産者、市場関係者、ＪＡ関係者らが出席し、出荷規格の確認が行われた。

夏秋なすは、青枯病、半身萎凋病など土壌病害が問題となっており、農林事務所では新規資材を用いた還元土壌消毒の効果を検討している。目揃え会では、６月上旬までの調査結果を情報提供した。

今後、夏にかけて土壌病害が発生しやすい時期となるため、引き続き病害対策を支援していく。

【出荷規格確認の様子】

ぎふ農畜水産物のブランド展開

■えだまめ　牧園芸組合目揃え会の開催

６月 14 日、牧園芸組合えだまめ部会の目揃え会が開催された。

令和６年産より現行パッケージから新パッケージに移行するほか、出荷規格の一部見直しがあったため、えだまめの現物を見ながら出荷規格の確認が行われた。

農林事務所からは、梅雨時期の排水対策や夏場の高温対策、農薬による適期防除について説明した。

令和６年産の県全体のえだまめ出荷目標が販売高７億円以上、800 円／kg 以上が掲げられている。農林事務所は目標達成できるよう、今後、病害虫対策を中心とした栽培支援を行っていく。

【出荷規格確認の様子】